

式 辞

一般社団法人 日本建設機械施工協会 会長
田崎 忠行



本日ここに一般社団法人日本建設機械施工協会の創立 70 周年記念式典を挙げるに当たり、謹んで御挨拶を申し上げます。

本協会は戦後間もない昭和 24 年 3 月、荒廃した国土の復興と経済の再建を図るため、我が国の建設事業の機械化が不可欠であり、その推進策として関係する官公庁、学会、民間企業が丸となって建設機械化協議会が設立されたことを起源と致します。翌 25 年に社団法人建設機械化協会として公益法人化され、昭和 27 年に社団法人日本建設機械化協会と改称されました。平成 24 年には、一般社団法人日本建設機械施工協会へと移行し、本年 3 月をもって、創立 70 周年を迎えることとなりました。

当協会発足の理念は、建設機械を設計・製造する製造業、建設機械を駆使して工事を行う建設業、建設機械の維持管理を行う整備業、機械を調達し提供する商事会社・レンタル業、建設機械や建設施工に関する研究機関が一体となって建設機械化に取り組み、建設工事の起業者である官公庁、民間企業等も含めた、建設の施工に携わる様々な関係者が一堂に集い、研鑽することが国土の資産形成において、可能性を拡大し、効率的に、安全に、環境負荷を少なく実現できることにつながるということであったと伺っており、これは現在も生き続けていると思います。

振り返ってみますと、我が国の建設の機械化は、戦後間もなく、米軍の払い下げ機械の使用に始まり、その後、曲折はありましたが順調に発展を遂げ、すでに昭和 50 年ごろには、国産の建設機械は性能、耐久性とも欧米製品に遜色ないだけでなく、欧米の製品を凌駕する機種も多くなりました。昭和 60 年代には我が国の経済が活況を呈し、国内生産は大幅に増加し、建設機械製造業は輸出産業の花形ともなり、また生産体制もグローバル化しました。

この 70 年間に於いて、防災・エネルギー開発のためのダム、輸送力向上を目指した道路・鉄道をはじめ各種の公共投資により発展基盤を整備し、その中で高速道路、新幹線、ダム等の大型プロジェクトを完成したことは、我が国の建設技術の優秀性を海外に示すものとして誇るに足るものであります。これらのプロジェクトは建設機械なくしては実現が不可能であり、当協会も建設機械化施工を通じて大きく貢献出来たものと自負しております。

近年、我が国を取り巻く環境は大きく変化しており、建設産業の分野においても就業者の高齢化が進み、また人手不足が深刻化しております。当協会は、ICT 技術を組み込んだ情報化施工を活用し、国の進めている i-Construction の施策のもとに、建設産業の生産性向上や施工の安全確保を推進すべく、今後とも技術革新に向かってより一層の先導的な役割を果たし、我が国の発展に寄与する所存であります。

終わりに、当協会は創立以来今日まで順調に発展して参りましたのも、これまで長年に亘り協会に参加された会員各位、協会活動に携われた役員・委員・職員各位のご尽力の賜物であり、創立 70 周年に当たり、感謝の意を表させていただきます。

また、御来賓として参列頂いた国土交通省・経済産業省のご指導に改めて厚く感謝申し上げます、今後も関係各位の変わらないご指導ご協力をお願いいたしまして挨拶といたします。